

CanDo アフリカ

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo)会報 2012年12月 [第61号]



| | | |
|---------|---------------------------|-------|
| 活動の方向性 | 自律的な学校給食への協力 | 永岡 宏昌 |
| ナイロビ便り | 総選挙は2013年3月に実施の予定 | 永岡 宏昌 |
| 活動の現況 | | |
| 報告 | ミグワニ県における地域保健—学習会と基礎保健研修— | 小山 杏菜 |
| 報告 | 学校運営能力向上と教室建設・補修事業の6つの学習会 | 鬼頭 景子 |
| ひと | 理事の自己紹介 | 川越 朋子 |
| 国内活動から | 早期妊娠予防研修の小冊子を作成しました | |
| フォトレポート | 基礎保健研修—集会での受講者選出・研修の1日目 | |
| 事務局から | | |

写真は、3日間の基礎保健研修でノートをとる受講者

自律的な学校給食への協力

代表理事 永岡 宏昌

2008年、世界食糧計画(WFP)は、ケニアの半乾燥地で長年行っていた、米国産メイズ(白トウモロコシ)中心の現物供与での学校給食援助を終了。当会の事業地、ムインギ東県とミグワニ県の一部も援助対象となっていました。その後、ケニア政府による給食への資金供与制度が始まりましたが、先細り気味で、また、干ばつ時の緊急供与の性格が強くなっています。

当会は、2009年から事業地や新たな候補地で、他の活動を行ないながら、小学校・幼稚園での給食の動向に着目してきました。

WFPが援助をしていたときは、メイズと豆を煮こんだギゼリが全ての幼稚園児・小学生に提供されていました。しかし、今年9月から11月までの3学期は資金供与が滞り、どの学校も給食は行なわれていません。各自が弁当を持参することになって、持ってこられない子どもが多く見受けられました。一部の小学校では、NGOから幼稚園児のおやつ用に供与された穀物と豆の粉で作ったウジ(砂糖を加えて水で煮込んだかゆ状)が、全生徒・園児で分けられていました。教員からは、給食がなくなると登校しない子どもが増えること、授業での集中力がなくなること、また、干ばつときは給食が1日で唯一の食

事となることを聞いています。

貧しい半乾燥地で学校給食は、子どもの健康を支える重要な役割を担っています。地域社会の状況が改善しない中で、国際援助や国の施策が後退する問題の一方、教員や保護者が援助を待ち続けていることも、子どもの健康に悪影響を及ぼすように思います。

この3学期に保護者の環境活動の一環として、野菜を育てる学校菜園と乾燥野菜作りの研修を行なった2小学校においても、給食は止まっていました。そこで、収穫した野菜の活用を理由として、保護者が穀物と豆類を持ち寄って野菜を加えて作る給食を提案したところ、学期末に実施されました。両校とも、来年度もこの自律的な給食を続けたい、と言っています。

穀物、豆類と薪(まき)を持ち寄る給食の形は、教員にも保護者にも目新しいものではないのですが、ほとんど実行されないか、実行されても短期間で途絶えてしまうとのことです。背景として、保護者が給食を実施することの意義を十分に理解する機会がないことや、穀物、豆類の公正な持ち寄り、その記録、弱い立場の人への配慮などの運営能力の課題などが考えられます。そこに当会の協力の必要性があると思います。

ナイロビ便り

総選挙は2013年3月に実施の予定

永岡 宏昌

ケニアの総選挙は、2013年3月4日の実施にむけて、準備が進んでいます。今回は、2010年に制定された新憲法での初めての総選挙になります。これまでの大統領・国会議員・地方議員の選挙から、大統領・国会議員・下院議員・地方政府首長・地方議員へと選ばれる職が増えています。

ケニアでは、18歳以上の国民に国民票(National ID)が発行されていて、選挙で投票するには、国民票を提示して選挙人登録する必要があります。現在、コンピュータやスキャナーを使った指紋と顔写真を記録する生体認証によって、選挙人登録を行なっています。しかし、技術的な問題とともに、前回の2007年総選挙後暴動からの選挙不信や不安もあって、登録の目標人数を大幅に下回っているのではないかと心配しています。

今回の展開も心配される大統領選挙ですが、現在、それぞれの政治リーダーが多くの政党を登録し、次の段階として政党連携も登録したところ。これにより、大統領の立

候補前ですが、大統領と副大統領の有力な組み合わせが予想できます。一つは現首相のライラ・オディンガ氏と現副大統領のカロンゾ・ムシオカ氏、対立するのは現副首相のウフル・ケニヤッタ氏と元高等教育大臣ウィリアム・ルト氏です。

ケニヤッタ氏とルト氏は、2007年総選挙後暴力で、それぞれ相手方の民族グループの殺害などを扇動した疑いで、国際刑事裁判所(ICC)で訴追され、2013年4月からハーグで開かれる裁判の被告となっています。今回は、双方の民族グループは対立せずに、協力して政権の獲得を目指しています。両氏がICCへの出廷から逃れるためには大統領職が必要、ということが背景にあると思われる。

裁判に関連して、両氏の大統領選挙への立候補が認められない可能性があります。その場合、また、選挙が行なわれてオディンガ氏グループと接戦となった場合など、急速に治安が悪化することも考えられます。

活動の現況 ミグワニ県—5校で教室建設、4校で教室補修事業の覚書締結。作業が進行中／学校保健でエイズ教育研修は終了、早期妊娠予防研修を実施／幼稚園の保健活動の覚書を5園で締結、活動開始／土壌保全、学校菜園の環境活動を5校で実施(どちらか、両方かは各校違う)／地域保健では基礎保健研修を実施◇ムインギ県—早期妊娠予防研修とエイズリーダー研修を準備中◇ナイロビ市ムクル・スラム群—12月の高校生対象の補習授業は中止

報告 ミグワニ県における地域保健—学習会と基礎保健研修—

調整員 小山 杏菜

2011年3月からミグワニ県で実施している地域保健の事業で、1年目には地域の住民を対象とした公開学習会に取り組み、2年目から、村で選出された人を対象とした基礎保健研修を行なっている。

■公開学習会

エイズと母性保護に関する知識を知ってもらうことを目的に、各3時間の公開学習会を、複数の村で構成された「村クラスター」ごとに開催。今年の6月上旬までに、ミグワニ県全36準区(区の下の行政単位)で行なった。

◇エイズ

学習会の導入では、HIV陽性者の夫と陰性者の妻「ピーターとジェーン」の事例を取り上げる。両親や兄弟との生活の中で、夫を別の場所に住ませたり、違う食器を使わせたりする一方で、妻は周りの人に夫が陽性者だと相談する—という話の後、専門家が参加者にどう思うかを問いかける。「違う食器を使うのは仕方がないことである」「妻は夫を愛すべきだ」など、参加者からはさまざまな意見が飛び交う。専門家は事例で考えるべき点をあげ、続いてエイズの流行の背景、HIV感染経路、予防の方法、エイズの発症を遅らせる方法について話す。予防でのコンドームの使用の部分は学習会によって異なる。

ペニスモデルを使用した実演、参加者の実習も加わる形、ペニスモデルなしでコンドームのみを見せて説明、の主に3通りある。

◇母性保護

母性保護学習会も別の「ピーターとジェーン」の事例から入る。16歳のジェーンが妊娠をし、医療施設での診察を受けないまま出産し、赤ちゃんが死んでしまう—エイズ学習会と同様、この話の後で、専門家が参加者の意見を聞く。その後で、妊娠・分娩・出産後において母子に起こりうる危険とその対処、早期妊娠の危険性などを話す。

■基礎保健研修

基礎保健研修は、各村から選出された人(男女は問わない)を対象に、各準区単位で行なう。参加者は、主に身近な事柄に関する保健の知識を3日間かけて学ぶ。6月から始め、現在、ミグワニ県36準区のうち26準区で研修が終了している。

1日目は衛生と一般的な病気、2日目は栄養、性感染症、母性保護、3日目にエイズに関する講義があり、最後にグループワークを行なっている。参加者はグループに分かれて、自らの地域の健康に関する問題と改善していくための方法を話し合う。その内容を代表者が発表して、全員で共有する。

報告 学校運営能力向上と教室建設・補修事業の6つの学習会

インターン 鬼頭 景子

小学校の教室建設・補修事業では、保護者とCanDoが協力して教室を建設・補修し、その過程で保護者が建設に関する技術・知識を学ぶだけでなく、活動を通して学校の運営能力を向上させることを目指している。事業の対象校の保護者総会で、まず「学校の運営能力向上事業に関する覚書」を交わす。実際の建設あるいは補修の活動に入る前に、次の6つの学習会を開催する。

—学校運営と管理能力向上—

1. 運営能力向上に関する学習会

保護者が学校運営に関心を持ち、運営していけるようになることが目的。日常、家庭で作られているチャイ(ミルク入り紅茶)を例として、どのような材料、流れで行なわれているかを参加者に聞きながら、管理のサイクル等を説明する。

2. 資材管理に関する学習会

建設あるいは補修で供与される資材の簡単な管理と記録方法を説明する。出納管理と在庫管理の担当者を保護者と教員から選出し、協力しながら指定された書類の記入を定期的に行なっていくように指導する。

3. 職人雇用に関する学習会

建設・補修の作業工程を説明する。それを把握することで、保護者が雇用する職人に関

して、その仕事量と報酬額の適切な判断と監督ができるようになることを目的としている。

—建設・補修準備のための技術指導—

4. 現地資材に関する学習会

砂、砂利、石、水などの地域で調達可能な資材(Locally Available Materials=LAM)を保護者が収集するに当たって、具体的にどのような大きさ・質のものを集めればいいのか、などを指導する。

5. レンガ作りの学習会

活動を行っているミグワニ県では、焼成レンガが家や教室などに多く使われている。地域特有の問題も考えて、レンガに使う土選びから焼成前までの工程を説明する。実際に小学校敷地内などで土と水を混ぜ、型抜きをし、乾燥させるまでの注意点も指導する。

6. レンガ焼成の学習会

乾燥させたレンガを焼成させるため、窯の材料、構造、組み方、風向きの影響などを詳しく説明する。

以上の学習会は学校運営だけでなく、各家庭においても技術、知識をいかにすることを期待している。

原則として、学習会と資材収集が終了後、「教室建設あるいは補修事業に関する覚書」を保護者総会で交わすことになる。

ひと 理事の自己紹介

川越 朋子



はじめまして、川越朋子と申します。2012年度年次総会の役員改選で、4月から理事を務めさせていただくことになりました。

現在、有限会社アフリカスクエアという主に雑貨を扱うアフリカ専門の輸入卸会社に勤務して、東・南アフリカ地域を担当しています。都内在住なのですが、1年に3回くらいケニアと日本を行ったり来たりして、合計して3、4か月は現地に滞在しています。

会員歴は約6年。CanDoのことは当時調整員だった、青年海外協力隊同期の橋場美奈さんから聞きました。国は一緒ではなく、わたしが派遣された国は南アフリカのボツワナ。工芸品をどうやって販売していくか、といった活動をしていました。国も分野も異なる

のですが、今の仕事と関係する土地で活動している友人とCanDoを応援したい気持ちから入会しました。

ケニアから輸入する商品はサイザルバッグ関係が中心で、CanDoの活動地域よりややナイロビ寄りのカンパランド(カンパの人たちが居住する地域)ーカタング、キツイーで女性グループと一緒に仕事をしています(なかなかカンバ語を覚えられずにいます)。彼女たちの働きぶりにはいつも頭が下がります。わたしから見たカンパの人たちの生活やその考え方を、CanDoでの活動に少しでも生かせたら、と思っています。

みなさま、これからどうぞよろしくお願いたします。

『ケニアの大人から子どもたちへ 大人になる・赤ちゃんが生まれることの保健のおはなし』～早期妊娠予防研修の進め方ノートから～』を発行しました



10月6日・7日、東京・日比谷公園におけるグローバルフェスタ JAPAN 2012への出展に合わせて、小冊子『ケニアの大人から子ども

早期妊娠予防研修のために、ケニア人スタッフ、専門家が中心になってまとめた進め方ノートから、子どもたちに話す内容、次に大人たちの役割を記しています。

送付をご希望の方は、事務局にご連絡ください。また、ウェブサイトの「資料室」にPDFの形で掲載しているので、ご覧いただくことも

できます。
http://www.cando.or.jp/library_1-1.html

16 『保健のおはなし』(A5判 12ページ)を
3 現場で配布しました。

フォト・レポート

住民への基礎保健研修

■ 準区の集会(バラザ)で受講者を選出



↑ 助役(準区担当の行政官)があいさつ



↑ 調整員助手が研修と選出について説明



↑ 受講者の名前を記入する用紙を各村の代表者(村長老)に渡す



↑ 村ごとに分かれて選出の相談



← 研修の案内状に受講者の名前を記載、封筒に入れてまとめた形で、助役から代表者に渡す

■ 3日間の研修の1日目



↑ 講義とお茶・食事に必要なモノを持参



↑ 目的の説明の後、専門家が「衛生」の講義



↑ ベビーシッターは受講者が連れてきた幼児を保育し、料理担当と助手がお茶の用意



← 「水と衛生」の講義の間に
昼食の用意



↑ 昼食後、もう一人の専門家が「一般的な病気の講義

事務局から

報告

◇支援

○11月1日、(独行)国際協力機構(JICA)「世界の人びとのための JICA 基金」による「ケニア・ムインギ東県での地域エイズ・リーダー養成事業」業務委託契約を締結(実施期間は2013年7月31日まで。99万7040円)。

◇国内活動

○10月6日・7日、グローバルフェスタJAPAN 2012 に出展。早期妊娠予防研修の小冊子を発行・配布(p.6参照)。

人の動き * 派遣・出張先はケニア

○60号に追加-9月1日~22日、元インターン 大谷佳代子を短期インターンとして派遣。

○9月11日、吉田真季子(よしだ まきこ)を短期専門家として派遣。

○9月19日、福田幸(ふくだ みゆき)をインターンとして派遣(2013年2月末までの予定)。

○10月1日、調整員 伊東彩を再派遣。

○10月2日、事務局長 久保内祥郎が出張から帰国。

○10月6日、才田恵里奈(さいた えりな)をインターンとして派遣(2013年2月末までの予定)。

○11月30日、代表理事 永岡宏昌が出張から帰国。

お知らせ

■国際教育開発セミナー第2回

「EFA(万人のための教育)目標 2 初等教育の完全普及~自律的な学校運営の向上」で永岡が報告

共催:教育協力 NGO ネットワーク(JNNE)

早稲田大学アジア太平洋研究センター

日時:2013年1月17日(木)18:30~20:00

会場:早稲田大学19号館7階710教室

参加費:700円(学生400円)

申し込み方法: JNNE のウェブサイトをご覧ください。<http://jnne.org/>

■公益社団法人日本青年会議所(JC)

京都會議 2013「国際協力フォーラム」
~世界平和のレシピ~に永岡が出演

日時:2013年1月19日(土)11:15~12:45

第1部-基調講演:(特活)日本紛争予防センター事務局長 瀬谷ルミ子さん

第2部-トークセッション:瀬谷さん/永岡/JC副会頭 柴田剛介さん

会場:国立京都国際会館 Room D

一般公開-参加費:無料

申し込み方法: CanDo事務局にお問い合わせください。

■次号は、2013年3月発行の予定です。

CanDo アフリカ [第61号]

2012年12月17日発行

発行人: 永岡宏昌

編集人: 佐久間典子

発行: 特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)
〒110-0001 東京都台東区谷中2-9-14 第2森川ビル B号室

電話/FAX: 03-3822-1041

電子メール: tokyo@cando.or.jp

ウェブサイト: <http://www.cando.or.jp/>

郵便振替: 口座番号 00150-2-15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会